

再発見 ふるさと風土記 上新城の伝説 シリーズ

④「傘松物語」

久保田の頃、道川郷の大滝沢には金山があつて賑わっていた。与十の父は金山の石を掘る人夫だった。採掘坑から掘った石を、四つん這いになりながら外に出てくるため膝に丸い草履を履かせていた。

与十が七つの時、働き者の父が病氣した。「コンコン」と弱弱しく咳き込み、医者から「よろけ病」だと言われた。穴の石の粉が肺に壁みたいにくびりついたので原因だった。

与十は父の代わりに働いたが、その甲斐もなく父は死んだ。母は繁盛していた「愛染の湯」で忙しく働いた。与十も働き、母と話をする暇もなかった。

与十が薪を取る愛染の社の西の山の中腹に、樹齢三百年も過ぎた大きな松の木が一本、空いっぱい立っていた。村人たちはこの木を「傘松」と呼んで、大事にしていた。

母に甘えられない与十は、薪取りが終わるところでゴロ寝して、思いを傘松に語りかけていた。「お前だって、ここで一本だけ立っている。寂しいだろう」。

傘松は優しく答えた。「そんなことはないよ。ここで一本だけ立っている。動くことはできないけれど、寂しくはないよ。空を流れる雲は、向こうの大きな海

のことを話してくれる。風は遠くの町のことを語ってくれる。小鳥たちは楽しい歌を聴かせてくれる。私は、それを聞きながら大きくなったんだよ。足元の積もった落ち葉に、昔から聞いてきた話をいっぱい貯めてあるから、その話をとくと聞いてみなさい」。与十は、ふっくらと暖かい傘松の落ち葉の上に、ぐっすりと眠っていた。

菅江真澄に描かれた傘松は村のシンボルであったが、今はもうない。



郷土史研究家 永田 賢之助

上新城のペット物語



vol.4

梅の花咲く境内を、自由気ままに♪

早春、美しい梅の花が開く上新城の梅林寺。このお寺に住んでいるのは、猫のウメくん(13歳)です。13年前、山から下りてきたところを鈴木さんご夫婦が保護し、家族に迎えました。「ウメは人懐っこい性格。撫でるとゴロゴロと喉を鳴らしますよ」と茂子さんは話します。暖かな日が差す居間の椅子の上でリラックスするのが大好きなのだそう。

梅林寺にはウメくんの他に、ベージュちゃんとクロちゃんの親子も住んでいます。「おとなしいのがベージュ、クロはちょっと神経質な性格だね」と茂子さん。3匹は仲が良く、廊下から本堂をマラソンしていることもよくあるのだとか。境内の中を気ままにお散歩するのも好きなようです。「ウメが一番長くここに居るから、自分が主だと思っているね。猫は縄張りが必要な生き物だから。それでも今はあまりケンカをしなくなったんですよ」と大智さん。

これからも家族みんなで仲良く過ごしてほしいですね。

ウメくんのご家族は、梅林寺の 鈴木 大智さん・茂子さん(下五十丁)

人、モノ、風景 上新城の宝物

盆踊りでつながる夏の夜

毎年8月のお盆過ぎに、中町内会と特別養護老人ホーム幸楽園の共催で「幸楽園夏祭り中町内合同盆踊り」を開催しています。当日は幸楽園の前庭駐車場を会場に、盆踊りや花火、抽選会などの催し物が行われます。ババヘアアイスや焼きそば、焼き鳥などの出店も用意され、毎年300人以上の来場者がにぎやかな夏の夜を楽しんでいます。

中町内では毎年、仮装盆踊り大会を開催しています。盆踊りの1週間ほど前にやぐらを組み、3～4日前には町内の公民館で太鼓や笛、踊りの練習をして本番に臨みます。太鼓や笛、踊りは世代から世代へと受け継がれてきたものです。当日は打ち上げ花火の後、10分間の休憩を挟み仮装盆踊りを披露します。それぞれの仮装と踊りの妙技を楽しみました。

残念ながらここ数年は、コロナ禍で人々が集まることが叶わず、盆踊りも開催を断念せざるを得ない状況です。盆踊りは町内に住む人たちが交流し、笑顔になることのできる空間です。近いうちにまたこの盆踊りを開催し、町内の皆さんの笑顔が見られることを願っています。



2017年の盆踊りの様子



2018年、盆踊りの夜を彩る花火

※写真は幸楽園様より提供

中町内会長 山田 賢一



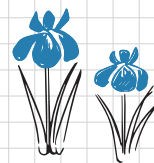


March さとぴあ講座レポート

23 端午の節句の置物と手漉き和紙づくり



＜講師＞ 高橋 朋子先生  
秋田市雄和に工房「出羽和紙(いでわし)」を構えている和紙職人です。



端午の節句の置物づくり

紙粘土で作った鯉のぼりに色とりどりの和紙をちぎって張り付けていきます。和紙の色合いと質感を楽しみながら、自分だけの鯉のぼりを作ることができました。

8歳の女の子は、迷いなく目の前の好きな和紙を選び、あっという間に可愛い鯉のぼりを完成させました。一緒に参加したお父さんは、じっくりと悩みながらも童心に返って楽しそうに和紙を貼り付けていました。

「素敵な和紙の色合いを上手に貼っていくのは難しいね～」と苦戦している様子がみえた方も、真剣に取り組みながらも楽しそうに笑い声を上げていました。



手漉き和紙づくり

- 新鮮な水※1の入った容器(漉舟)に楮の繊維を適量入れる。
- 1の水にネリを加えて※2楮の繊維をほぐし、よく攪拌する。
- 笥の上下をしっかりと合わせて持ち、2の液に入れて繊維をすくう。
- 笥を水平に保ちながら前後左右に揺らして繊維を均一に整え、厚みを調整する。
- 漉きあがった紙は水分をしっかりと切って、糞から丁寧に取り外し平板に貼る。
- 天日乾燥、自然乾燥してできあがり!

※1 今回は水道水を使用しました。  
※2 ネリはトロアオイの根を漬して水に浸し、溶け出した粘度の高い液体を濾したものを、水の中で繊維を均一に広げ、絡みにくくなります。また、水に粘り気が出て繊維が沈みにくくなります。

高橋先生の指導の下、参加者の皆さんは見よう見まねで慎重に作業していました。

参加者の言葉

「ずっと手漉き和紙を作ってみたかったことと、高橋先生の作品が大好きなので、ダブルでとても楽しかった。皆さんと仲良く作品づくりができて嬉しかった。」  
「手漉き和紙と鯉のぼりづくりができて、とても嬉しかった。貴重な体験でしたね。」  
「楽しかったけど、難しかったね。」

麻木裕子 ディンプルアート展



ガラスやアクリル板にアルコール系の絵の具で描き、スタンドグラスのような透明感と彩りが際立つ「ディンプルアート」。ガラス絵とは異次元の世界をご鑑賞ください。

日時 令和5年 5月15日(月)～6月9日(金) 10:00～18:00

場所 さとぴあ 玄関展示ホール

自由観覧

花すがた和紙人形 草薙郷子の世界



特別展示 「秋田の稲作」

四季折々の花々と、色彩豊かで優美な和紙人形の世界、昔懐かしい農具で、四季の農作業風景を展示します。

自由観覧

日時 令和5年 5月7日(日)まで 10:00～18:00

場所 さとぴあ 玄関展示ホール

下浜ミニアトリエ展



創成から30年、下浜地区コミセンをベースに活動しているサークルです。作風にこだわらずメンバーそれぞれが自由に描いております。

日時 令和5年 5月7日(日)まで 10:00～18:00

自由観覧

場所 さとぴあ 天窓廊下

5月の講座一覧

5/4 木

リンゴの摘花作業体験 & オカリナミニ演奏会

5/13 土

料理講座 「旬の筍とミズを使った料理」

5/21 日

田植え体験(昼食付)

5/7 日

山菜採り体験と旬の山菜料理 & ミニ音楽会(昼食付)

5/14 日

空目銅(もくめがね)工芸体験 「指輪づくり」

5/27 土

藍苗の植え付けと藍染め体験

5/11 木

毛糸の草木染めプロジェクト 第1回「羊の毛刈りと小物作り」

5/20 土

岩谷山登山と山菜料理

5/28 日

絵ごころ表現教室 第1回「野山を彩る植物スケッチ」

令和5年度 援農ボランティア ボランティア受入農家募集中!

詳細はお問い合わせください。

「上新城さとぴあだより・ふるさと瓦版」は、上新城地区の瓦版です。次号の配布は、7月6日・7日の予定です。地区の皆さんにお知らせしたい情報がありましたら、「さとぴあ」までお寄せください。

